

福島大学資料研究所活動報告書

所長 黒沢 高秀

○研究目的

福島大学で所蔵している研究資料や郷土資料の適正保管や活用を図るとともに、図書資料や各種情報と結びつけ、教育・研究・地域との連携を推進する。

○研究メンバー

<研究代表者（研究所長）>

黒沢高秀（共生システム理工学類・教授）

<研究分担者（プロジェクト研究員）>

菊地芳朗（行政政策学類・教授）

阿部浩一（行政政策学類・教授）

塘 忠顕（共生システム理工学類・教授）

徳竹 剛（行政政策学類・准教授）

<連携研究者（プロジェクト客員研究員）>

澁澤 尚（人間発達文化学類・教授）

小松賢司（人間発達文化学類・准教授）

笠井博則（共生システム理工学類・准教授）

難波謙二（共生システム理工学類・教授）

鍵和田賢（人間発達文化学類・准教授）

○研究活動内容

大学貴重資料の整理・活用

経済経営学類と協力して整理を行ってきた福島高等商業学校資料について、文書の概要とともに作成年や表題などの一覧を含む『福島高等商業学校文書目録』にまとめ、2021年7月31日に福島大学経済経営学類より発行した（図1）。

昨年度に続き、戦国大名伊達氏をはじめとする中世福島・東北史の研究で著名な小林清治名誉教授の旧蔵資料の再整理を継続した（図2）。

福島大学貴重資料保管室植物標本室FKSEでは2021年4月1日～2022年3月31日の間に、のべ2名の学外の研究者の訪問利用があった。また、研究者からの7件の標本データベースのデータ照会に対応した。また、環境放射能研の研究資料の蘚苔類標本に関して、学外の研究者に1件の標本同定依頼を行った。2020年7月の九州豪雨で被災し、水害で浸水被害にあった熊本県人吉市の人吉城歴史館に保管されていた「前原勘次郎植物標本」の修復に国内の博物館・大学等

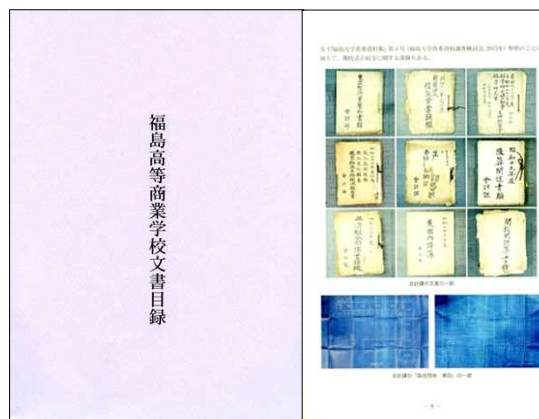


図1 福島高等商業学校文書目録。

の48施設とともに昨年度から取り組んできたが（安田他 2021）、修復が完了し、人吉市役所教育部歴史文化課に返還した。この件に関し、福島大学宛に2021年3月9日付けでお礼状が届いた。

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「県勢標本「静岡発」自然史コレクションから見えるもの」（会期：2021年4月24日～11月7日）にフジタイゲキの標本や研究に関する資料を貸し出しするなどの協力を行った。

主催展示事業

ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「県勢標本」里帰り展（主催：福島大学資料研究所）を2021年12月20日～1月17日に福島大学



図2 小林清治名誉教授資料の再整理の様子。2021年12月7日撮影。

附属図書館1階ロビーで開催した(図3)。これはふじのくに地球環境史ミュージアム企画展で展示された福島大学貴重資料保管室所蔵標本を展示し、貴重資料保管室で保管している資料の価値を示すことを目的に行った展示である。福島大学教員が研究したフジタイゲキの標本や、静岡県内の研究者とやり取りした手紙、標本をもとにした論文などが展示された。新型コロナウイルス感染防止のために、プレスリリースなどは行わず、図書館の入場制限により学外者の閲覧はできなかったが、学内から多くの人々が訪れ、そのうち記帳をした人は主催関係者(研究所メンバーとその研究室学生・ゼミ生)3名、主催関係者以外の学内から53名の合計56名であった。



図 2 ふじのくに地球環境史ミュージアム企画展「県勢標本」里帰り展の様子。

情報発信

HP (http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~kurosawa/IUMC_Fukushima_Univ/fukushima_ac.html)で本研究所および研究所研究メンバーの活動を紹介するとともに、県内を中心とする貴重資料や関連行事のニュース5件などを「お知らせ」欄などに掲載した。活動報告書のページを作成し、過去の報告書を掲載した。

2021年12月より附属図書館1階ロビーに掲示版を設置し、展示の案内や『福島大学貴重資料集』などの配布を始めた。

後援事業

2021年1月17日～2月18日に福島大学附属図書館1階ロビーで開催された「藍」(主催:令和3年度共生システム理工学類博物館実習履修者の会)を後援した(付録参照)。

大学貴重資料を活用した研究業績一覧

資料研究所研究メンバーが管理する貴重資料を活用して行われ、2021年4月1日～2022年3

月31日の間に出版され、資料が出版物内に引用または明記された研究業績の一覧を示す(それ以前に発表されて、報告書に掲載されていない業績も含む)。下線は研究メンバーを示し、*は研究メンバーを含まない研究業績を示す。

*蓮沼憲二. 2020. 福島県会津地方のヤナギ. 会津生物同好会誌 (58): 5-18.

黒沢高秀. 2020. 沼山峠休憩所旧トイレ前の斜面の帰化植物及び移入と扱われる在来植物. 尾瀬の保護と復元 (34): 3-8.

*矢野興一・池田博. 2021. 北海道で採集されたカヤツリグサ科ノグサ. 莎草研究 (23): 19-28.

*Kurata, S., Sakaguchi, S., Hirota, S.K., Kurashima, O., Suyama, Y., Nishida, S. & Ito, M. 2021. Refugia within refugium of *Geranium yesoense* (Geraniaceae) in Japan were driven by recolonization into the southern interglacial refugium. *Biological Journal of the Linnean Society* 132: 552-572. <https://doi.org/10.1093/biolinnean/blaa212>

*湯澤陽一・蓮沼憲二・根本秀一. 2021. 福島県のシケシダ (*Deparia*) 属シダ類について. 会津生物同好会誌 (59): 83-94.

*湯澤陽一・湯澤幸代. 2021. 続々福島県浜通り地方の帰化植物. 会津生物同好会誌 (59): 105-111.

荷川取 佑記・原口 大・仲宗根 弘晃・儀間 靖・平良 秀平・砂川 喜信・比屋根 真一・黒沢高秀・浅井 元朗. 2021. 沖縄県宮古島地域のサトウキビ圃場における外来雑草カワリバトウダイ (*Euphorbia graminea* Jacq.) の侵入・定着状況. 66: 35-40.

徳竹剛. 2021. 福島高等商業学校文書目録. 福島大学経済経営学類, 福島.

根本秀一・黒沢高秀. 2021. 東北地方初記録のホナガカワヂシャ (オオバコ科). 東北植物研究 (22): 41-45.

平岡佑大・山ノ内崇志・黒沢高秀. 2021. 国史跡名勝南湖公園流域管理のための上流水路の植物相に関する研究および保全に向けた情報整備. 福島大学地域創造 33(1): 75-99.

*Araki, K. S., Tsujimoto, M., Iwasaki, T. & Kudoh, H. 2021. Life - history monographs of Japanese plants 14: *Cardamine leucantha* (Tausch) OE Schulz (Brassicaceae). *Plant Species Biology* 36: 542-553.

大井・東馬哲雄・田中伸幸・大西亘・黒沢高秀. 2021. 帰化植物バルカンノウルシ(トウダイグサ科)の国内の分布と生育状況. 植物研究雑誌 96:

297-303.

黒沢高秀・首藤光太郎・佐藤晃平・早坂英介・西田謙二・村長昭義・藤井伸二・兼子伸吾. 2021. 滋賀県近江八幡市宮ヶ浜の「イワキアブラガヤ」はセフリアブラガヤ (カヤツリグサ科) である. 植物地理・分類研究 69: 179-188.

山ノ内崇志・曲渕詩織・川越清樹・平吹喜彦・黒沢高秀. 2021. 東北地方太平洋沖地震の津波後に自然に再生したクロマツ低木疎林と生育基盤盛土上に植林された海岸防災林の植生およびその表層土壌環境. 植生学会誌. 植生学会誌 38: 191-208.

黒沢高秀・根本秀一. 2022. 田口亮男資料に基づく 1901~1910 年の福島県における海岸植物の種多様性の状況. 福島大学地域創造 33(2): 91-104.

Yamashita, Y., Ogura-Tsujita, Y., Nagata, N., Kurosawa, T. & Yukawa, T. 2022. Molecular identification of seed - feeding flies dissected from herbarium specimens clarifies the 100 - year history of parasitism by *Japanagromyza tokunagai* in Japan. Ecological Research 37: 240-256.

武藤将道・吉井重幸・塘忠頭. 2022. 福島県で最近発見された外来カミキリ *Apriona swainsoni swainsoni* (Hope, 1840)(コウチュウ目・カミキリムシ科・フトカミキリ亜科) の分布, 食害および後食に関する予備的な報告. 昆虫. ニューシリーズ 25(1): 18-24.

大森威宏・黒沢高秀・志賀隆・薄葉満・根本秀一・吉井広始・海老原淳・田中徳久・天野誠. 2022. 尾瀬産維管束植物相とその再検討. 低温科学 80: 175-197.

大森威宏・黒沢高秀・志賀隆・薄葉満・根本秀一・吉井広始・海老原淳・田中徳久・天野誠. 2022. 尾瀬の維管束植物目録の見直し. 低温科学 80: 199-223.

薄葉満・志賀隆・加藤将・黒沢高秀・根本秀一・緑川昭太郎・山ノ内崇志・大森威宏. 2022. 尾瀬沼及び周辺湿原の大型水生植物相. 低温科学 80: 225-235.

大学貴重資料に関する記事や報道

資料研究所の活動や研究メンバーが管理する貴重資料に関して, 2021年4月1日~2022年3月31日の間に発表された解説記事や報道の一覧を示す。

「110 年前の磐梯山 山麓にチシマザサ, 岩礫地にヒメシャジン 植物の状態判明 福大の黒沢

教授 故田口氏の手稿など基に」(福島民報新聞, 2021 年 4 月 15 日版)

「磐梯山噴火後の山麓 植林前は草原 福島大チーム植物研究分析」(福島民友新聞, 2021 年 4 月 15 日版)

引用文献

安田晶子・前田哲弥・金重雅彦. 2021. 令和 2 年 7 月豪雨による水損植物標本の救済活動. 熊本県博物館ネットワークセンター紀要 (1): 59-70.

【付録】

展示「藍」(福島大学資料研究所後援事業)

令和 3 年度共生システム理工学類博物館実習履修者の会 早川武流

令和 3 年度 共生システム理工学類 博物館実習履修者の会として, 令和 4 年 1 月 17 日から 2 月 18 日までの間, 本学附属図書館 1 階において, 展示「藍」を開催した。貴重資料保管室所蔵のアイの標本, 南会津町で行われている藍染めに関する資料, 藍四十八色に関する資料などを展示した。

理工学類開講の博物館実習のため, 自然科学に関する展示を考えていたが, 1 つのキャンパスに 5 学類が集まっていることを活かして, 歴史・芸術・まちづくり・栽培・化学等の, 全学類の学生に興味を持ってもらえるような内容の展示をした。

多数の学生の見学や一般の方の見学もあり, 藍についてたくさんの人に知ってもらえる機会になったと思う。



付録図 1 展示「藍」の様子.